

スペイン語

川上 茂信, チャビ・アラストゥルエイ

今回のアンケートに対しては、まずアラストゥルエイが例文をスペイン語に訳し、訳文を 2 人で検討した上で川上が回答を文章化した。

(1) 「えっ、一郎が来たの?」「いや、一郎じゃなくて次郎が来たんだ。」(例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

- a. ¿Eh? ¿Vino Ichiro?—No, es Jiro el que vino, no Ichiro.
eh? came ichiro?—no, is jiro the REL. came, not ichiro¹

まず質問部分では主語の Ichiro が動詞 vino (不定詞 venir) に対して後置されており、焦点的情報を担っている。それに対する答えでは、コピュラ es (不定詞 ser) と関係節 el que... を用いたいわゆる強調構文によって Jiro が焦点化されている。

この(擬似)分裂文的な構文では定冠詞 el を伴った関係代名詞 que が使われている(定冠詞は男性単数形で, Jiro に性数一致している。来たのが花子であれば la になる)。この定冠詞の機能については諸説あるが、少なくとも言えることは、定冠詞のない関係節 que vino が形容詞的に働くのに対し、定冠詞付きの el que vino は名詞的に機能するということである。

なお、強調構文には定冠詞を伴わない que によるバリエント es Jiro que vino もある。この場合の que については関係詞という説と接続詞という説がある(RAE & ASALE 2009: §40.10.a)。こちらのバリエントは長らく規範的には正しくないとされていた。外国人向けの参考書には、未だにこれを間違いとしているものもある²。今回のアラストゥルエイによる訳には現れていない。

(2) 「誰が来た(の)?」「一郎が来たよ。」

- a. ¿Quién ha venido?—(Ha venido) Ichiro.
who has come(pp)?—(has come(pp)) ichiro

スペイン語の疑問詞つき疑問文では、疑問詞が文頭に来るのが通常の語順。¿Ha venido

¹ REL. は関係代名詞を表す。

² たとえば Butt & Benjamin (2013: 517): «Foreign student tend not to use nominalizers in cleft sentences. This produces bad Spanish like *fue él que me dijo for fue él quien/el que me dijo ‘it was he who told me’».

quién? の語順が現れるのは *Ha venido Ichiro* 「一郎が来た」の *Ichiro* の部分が聞きとれなかったような場合だろう。

答えでは、後置主語による焦点化がなされている。

(3) 「一郎の方が大きいんじゃないの?」「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」(一郎と次郎の背について話している状況で)

a. *¿No es Ichiro más alto? –No, Jiro es más alto.*

not is ichiro more tall? –no, jiro is more tall

この例では、アラストゥルエイの内省によれば (1) と異なり強調構文は自然に響かない。しかも (2) の答えのように *Jiro* を後置する (*es Jiro más alto / es más alto Jiro*) のもしっくり来ない。これは動詞 *ser* を使ったコピュラ文であることが関係していそうである。

焦点が *Jiro* であることはアクセントによって示される。

(4) [電話で]「どうした(の)?」「うん、今、お客さんが来たんだ。」

a. *¿Qué pasa? –Nada, que ha venido un cliente.*

what happens? nothing, CONJ. has come(pp) a client³

この例のように、主語と動詞のみからなる構成で、かつ主語が不定名詞句である場合、「動詞+主語」以外の語順は難しい⁴。文焦点ということで、主語が主題化されてもいないので、これが考えられる唯一の回答だろう。

なお、この訳文では、まず「どうしたの?」に対して *nada* 「何でもない」と返すことから始めている。次の *que* は接続詞で、日本語の「んだ」の「ん(の)」のように、先行する文脈に対して説明を加える働きをしていると考えられる。

(5) 「あの子供が一郎を叩いたんだって!」「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」

a. *¿Que ese niño ha pegado a Ichiro? –No, a Ichiro no; ha sido a Jiro (al que ha pegado).*

CONJ. that boy has hit(pp) A ichiro? no, A ichiro not; has been A jiro (A+the REL. has hit(pp))⁵

³ CONJ. は接続詞を表す。

⁴ この文脈では原文にある「今」を独立した要素として訳出するのは難しい。

⁵ A は前置詞 *a* で、ここでは間接目的語のマーカとして働いている。特定の人を表す直接目的語につくマーカという解釈も可能だが、「叩いた」の訳に使われている *ha pegado* (不定詞 *pegar*) は元来直接目的語に「叩き」を意味する名詞を取り、叩く対象が間接目的語となる (*pegar una bofetada a Ichiro* 「一郎に平手打ち *bofetada* を食らわす」)。直接目的

前半は接続詞 *que* で始まっているが、これは原文の「って」に相当する。それに続く部分は「主語＋動詞＋目的語」という無標の語順になっている。それを承けた後半では、まず修正すべき情報だけが取り出されて否定されている。その後の *Jiro* の導入は *ser* を使った強調構文だが、*Jiro* で終わることも可能である。

また、強調構文を使わずに次のように言うこともできる。

- b. No, a Ichiro no; ha pegado a Jiro.
no, A ichiro not; has hit A jiro

この場合は文末焦点ということになる。

(6) 「赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買う (の) ?」 「(私は) 青い袋を買うよ。」

- a. Hay una bolsa roja y otra azul; ¿cuál vas a comprar? –Voy a comprar la azul.
there-is a bag red and other blue; which go(you) to buy? go(I) to buy the blue

原文の「どっち」にあたるのは *cuál* で、この疑問詞は、想定される集合の中から要素を選び出すことを求める。答えは単純な文末焦点文。

焦点をぼかさないので一役買っているのが *otra azul* 「ほかの青い (の)」と *la azul* 「青い (の)」で、*bolsa* 「袋」を繰り返さないことで、色が問題になっているということが明確になっている。

(7) 「一郎はどうした?」「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」(例えば、朝少し遅く起きて来た一郎の父親が、姿の見えない一郎について母親に尋ねている場面で)

- a. ¿Dónde está Ichiro? –Ha salido a algún sitio esta mañana.
where is ichiro? has gone-out to some place this morning

設定に合わせて前半は「どこにいる?」と訳してあるが、後半はほぼ直訳である。ほぼ、と言うのは「一郎」が現れていないことで、このようなやり取りでは *Ichiro* を言わないのが普通である。実は、川上はアラストゥルエイの訳文を見たときに *Ichiro* が欠けていることに気づかなかった。述語焦点の例だが、焦点以外の部分を表現しないことでそれが明確になっているとも言える。仮に *Ichiro* を言うとしたら文頭に置くことになるだろう。

語が現れないことも多いが、その場合でも叩かれる人は間接目的語であり続けるという (RAE 2005: s. v. *pegar*).

(8) 「(あの子供は) 誰を叩いたの?」「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

a. ¿A quién ha pegado? –(Ha pegado) a su propio hermano.

A who has hit(pp)? (has hit(pp)) A his own brother

WH焦点については、例文 (2) と同様疑問詞が文頭に置かれている。答えは焦点になる間接目的語だけでも成り立つし、動詞+目的語の語順でも良い。

(9) [電話で]「どうした(の)?」「うん、一郎が(自分の) 弟を叩いたんだ。」(例えば、電話の向こうで子供の泣き声起きたのを聞いての発話)

a. ¿Qué ha pasado? –Que Ichiro ha pegado a su propio hermano.

what has happened(pp)? CONJ. ichiro has hit A his own brother

この例では (4) と同様、答えが接続詞の *que* で始まっていて、その後は「主語+動詞+目的語」という無標の語順になっている。同じ文焦点の (4) との違いは、こちらには主語・動詞以外の要素があることと、主語が定であること。

(10) 「あのケーキ、どうした?」「ああ、(あれは) 一郎が食べちゃったよ。」

a. ¿Qué ha pasado con ese pastel? –Ah, que Ichiro se lo ha comido.

what has happened with that cake? ah, CONJ. ichiro SE it(ac.) has eaten⁶

訳の前半は「そのケーキに何が起きた?」で、「ケーキに」の部分 *con ese pastel* を主題化して前に置くことは不可能ではないが、自然には響かない。一方、後半では目的語の弱勢代名詞 *lo* が *ese pastel* を承けている。当然予想されるように、弱勢代名詞は焦点になり得ない。

(11) 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」

a. Este libro es el que compré ayer en la tienda.

this book is the REL. bought(I) yesterday in the shop

スペイン語の強調構文には (1) と (5) のように「Ser+焦点+関係節」という語順の他に、ここに見られる「焦点+ser+関係節」のパタンもある。

⁶ SE は再帰代名詞で、ここでは動詞 *comer* (過去分詞 *comido*) 「食べる」にアスペクト的なニュアンスを付け加えて「食べ切る」のような意味を作っている。

強調構文ではないが、よく似た次のようなパターンも考えられる。

- b. Este es el libro que compré ayer en la tienda.
this is the book REL. bought(I) yesterday in the shop

この例では関係節が名詞を修飾していて、直訳すれば「これが私が昨日お店から買って来た本だ」となる。見ようによっては、名詞が明示される位置が強調構文と異なるだけで、情報構造的には大きな違いはないと言える。

また、日本語の語順に近い、以下の

- c. El libro que compré ayer es este.
the book REL. bought(I) yesterday is this

も可能だが、これはネットで買った本と店で買った本が並んでいて、というような対比的状況が相応しい。

(12) 「あの人は先生だ。この学校でもう3年働いている。」

- a. Ese hombre es profesor. Lleva ya tres años trabajando en esta escuela.
that man is teacher. TAKES already three years working in this school⁷

2つ目の文は主語が明示されていないが、1文目の主語 *ese hombre* が理解される。

(13) 「彼のお父さんは、あの人だ。」

- a. Su padre es ese hombre.
his father is that man

(14) 「あの人が彼のお父さんだ。」

- a. Ese hombre es su padre.
that man is his father

(13) と (14) については文脈を補って考えてみる。川上の語感では、(13) は「あの人」

⁷ TAKES をあてた *lleva* (不定詞 *llevar*) は期間を表わす語句と動作を表わす語句 (この例では動詞 *trabajar* 「働く」の現在分詞 *trabajando* 以下) とともに、これまで動作が継続し、今も続いていることを表す。

が視界に入っている状態で「彼のお父さんはどの人・どこですか」と聞かれた場合が思い浮かぶ。それに対して (14) は質問されて辺りを見回し、彼の父親を見つけて発した言葉のように聞こえる。単なる印象であり、考え続けると変わってくるかもしれないが、この印象に基いて訳文を検討した。その結果、アラストゥルエイの語感では (13) で可能なのは *su padre* で始める語順のみだが、(14) については (13a) と同じ語順もありうる。いずれの場合も *ese hombre* が焦点であることに変わりはなく、アクセントの位置とイントネーションで区別がつくが、焦点を前に置いたパタンの使用範囲が限られているということになる。

(15) 「あさってってというのはね、あしたの次の日のことだよ。」

- a. *Pasado mañana significa (es) el día después de mañana.*
passed tomorrow means (is) the day after of tomorrow

アラストゥルエイは最初 *significa* (不定詞 *significar* 「意味する」) を使って訳したが、コピュラ文でも普通に表現できる。

(16) 「何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて」 「私はコーヒーだ。」

- a. *Para mí, un café.*
for me, a coffee

スペイン語では、この文脈で「私」を主語にしたコピュラ文は使われない。上の例では「私」は前置詞とともに現れていて、「私には、コーヒーを(下さい)」のような構造になっている。1人称単数代名詞の主格を使った次のような言い方

- b. *Yo, un café.*
I, a coffee

も可能だが、この場合も動詞は「注文する」や「欲しい」といったものが理解される。

(17) 「注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか？」との問いに」 「コーヒーは私だ。」

- a. *Para mí. / El café es para mí.*
for me / the coffee is for me

前の (16) から予想されるように、人称代名詞が前置詞 *para* を伴った形が普通である。

このパタンの「無標度」を示す、定番の言葉遊びがある。

- b. La paella es pa ella.
the paella is for her

これは「パエリアは彼女だ」に当たるが, *paella* は代表的なスペイン料理, *pa* は *para* のくだけた発音で, *pa ella* は完全に *paella* と同じ音になる. 川上もレストランの客の口から聞いたことが何度かある.

(18) 「その新しくて厚い本は (値段が) 高い。」

- a. Ese libro nuevo y grueso es caro.
that book new and thick is expensive

指示形容詞は名詞の前に置かれるのが普通で, 物を分類する形容詞は後置される. 並列された形容詞は接続詞でつながれる. 形容詞が 3つ以上であれば接続詞は最後の形容詞の前だけで良い (*ese libro nuevo, grueso y caro* 「その新しくて厚くて高い本」).

名詞を修飾する形容詞も述語の形容詞も名詞に性数一致するが, 述語の形容詞は例文のように動詞をはさんで明確に区別される.

(19) [砂糖の入れ物を開けて] 「あっ, 砂糖が無くなっているよ!」

- a. ¡Ah, se ha acabado el azúcar!
Ah, SE has ended the sugar⁸

ここでは (4) と同様, 「動詞+主語」の文焦点的語順が用いられている。

(20) 「午後, 誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ. あっ, そうだ! 田中君だったな。」

- a. Por la tarde tenía que ver a alguien... ¿Quién era? ¡Ah, sí! Era Tanaka.
in the afternoon had(I) QUE see A somebody... who was? ah, yes! was tanaka⁹

文中の *tenía* と *era* は, それぞれ *tener* と *ser* の直説法未完了過去形¹⁰. スペイン語が持つ 2つの過去形のうち, この思い出しの用法があるのは未完了過去の方で, もう一方の

⁸ SE は再帰代名詞で, *ha acabado* (不定詞 *acabar*) 「終える」を自動詞化している.

⁹ *tenía* (不定詞 *tener*) *que*+不定詞で「・・・しなければいけない」を表す.

¹⁰ 「線過去」という言い方もよく使われる.

単純過去¹¹にはない。

参考文献

欧文

Butt, John & Benjamin, Carmen. 2013. *A New Reference Grammar of Modern Spanish*. 5th edition, New York: Routledge.

Real Academia Española & Asociación de Academias de la Lengua Española. 2009. *Nueva gramática de la lengua española*. Madrid: Espasa Libros.

¹¹ 「点過去」という言い方もよく使われる。